

東大経済学部のカール・メンガー旧蔵書

大河内 暁男

I

碩学カール・メンガー Carl Menger 旧蔵書の一部が、東京大学経済学部にも所蔵されている。この事実は本年 2 月に判明した。人の知るごとく、メンガー遺愛の書の主要部分は、大正 11 年にメンガー未亡人から直接に東京商科大学へ売却され、それは「メンガー文庫」として現在も一橋大学に所蔵されている。これまで、メンガー未亡人に文学書を、令息カール Karl に自然科学書と哲学書を残したほかは、メンガーの専門たる経済学と隣接領域に関する蔵書は、こうして散逸を免れたものと思われていた¹。ところが、東京大学経済学部蔵書中に、後掲目録のとおり、44 部 80 冊のメンガー旧蔵書が確認されたのである。

東京大学図書館登記番号で経 2575 番から経 2618 番に至る一群の書籍が、そのメンガー遺愛の旧蔵書で、大部分にはメンガーの蔵書票が貼付されている。この一連番号の蔵書を記録した経済学部図書室の中央図書館宛「カード送付簿」²の備考欄には、「メンガ」と注記されている。また大正 13 年 3 月 31 日付の経済学部「図書館備付証」も、この 2575 番から 2618 番までをもつて一件とし、備付証番号 519 が付され、その第 1 ページにも「メンガー」と書き入れられており、研究室主任代理大内兵衛教授の決済印が押されている。以上の事実から判断して、これらの書籍はメンガー旧蔵書として一括購入されたものであろう。購入価格は総計 675 円 75 銭で、経済学部費をもつて支払われている。

書籍の大部分には、その表紙左肩に Prof. Carl Menger. と黒色印刷した二重枠付の簡素な蔵書票³が貼付されており、同票に分類記号と番号とが記入済のもの、番号のないもののほか、判読できないものもある。また一点のみ扉裏にゴム印の蔵書印が押されている。蔵書票および蔵書印は、「メンガー文庫」中のものと一致する。一部の書籍は蔵書票を喪失しており、また一部は、経済学部にも収蔵されてから後に行われたと思われる補修に際して、表紙や蔵書票を失ったごとくである。もっとも、これらメンガー旧蔵書は、大正 13 年以来、現在に至るまで、少数の貴重書扱い本を除けば、一般書として分類配架され、通常の閲覧に供されていたので、その間にも蔵書票の剥離は生じたらう。

¹ 金子 鷹之助「メンガー文庫購入と当時のウィーン事情」『経済往来』13 号、37-39 ページ、大塚金之助「カール・メンガー文庫の思い出」『一橋大学附属図書館史』183-187 ページ、「メンガー文庫購入に関するベルリン留学生よりの報告」『同上』168-194 ページ、山田雄三「カール・メンガー生誕百年」『一橋論叢』5 卷 3 号、114 ページ、杉原四郎「わが国にある外国人経済学者の文庫」『経済資料研究』1 号、10 ページ、R.S. Howey, *The Rise of the Marginal Utility School 1870-1889*, p.230, n.7.

² 経済学部図書室は、入手した図書を東京大学図書館の蔵書として登記するため、通し番号を付した目録カードを中央図書館に送付している。カード送付簿はこのカード受け渡しの記録簿である。

³ 大きさが 18.5×34 mm と 20.5×34 mm の 2 種類あり、前者は飾文字で印刷されている。

東京大学が有するメンガー旧蔵書は、点数においては「メンガー文庫」に比較すべくもない。しかし、マルサス『人口論』が、1978年の第1版から1856の第6版まで、すべて揃っている点は、注目すべきであろう。「メンガー文庫」には『人口論第四版への補遺』(1817年)が含まれているものの、『人口論』自体は、仏訳以外に見当たらない。このことは、メンガーの古典蒐集の仕方から見て、理解し難いところであった。今回、東京大学の所蔵本によって、メンガーがマルサスについても整ったコレクションを有していたことが、明らかになったわけである。なお、『人口論』の初版と第5版は、外装が損傷してはいるが、いずれも灰青色ボール表紙未装幀本であり、これは恐らく、出版元から売り出された当初の状態を保っているものと考えられる。因みに、『人口論』各版の購入価格は、いずれも50円と記帳されている。

マルサスのほかには、James Anderson, William Cobbet, Harriet Martineau, Joseph Massie, James Mill, Nassau W. senior, Josiah Tucker など、イギリス古典学派ないしその周辺の著作が目につく。

II

メンガー旧蔵書は如何なる経路で購入されたのか。当時の会計記録が保存されていない現在、遺憾ながらその詳細を確認するに至らない。しかし、この蔵書を入手する頃、経済学部はおおよそ以下のような書籍蒐集の努力をしており、その過程でこれらの書籍が収蔵されたものであることは間違いない。すなわち、メンガー旧蔵書が登記される前年、大正12年の関東大震災火災の折、経済学部の蔵書は、アダム・スミス文庫など極く一部を除いて、その総てが灰燼に帰した。9月10日に震災後最初の教授会が開かれたが、そこで震災復旧最重要施策の一つとして、研究室図書の可及的速やかな再興整備が決まり、図書その他の復旧費として継続費50万円、大正12年度分10万円を要求することとした。その後教授会は、留学中の教官⁴に対して、蔵書の売り物を調べるよう依頼し、さらに、図書管理の責任者たる研究室主任上野道輔教授を、図書の受贈と購入のため、ヨーロッパに派遣することとした⁵。こうして、海外での直接買付が、図書復興の柱となった。

当時イギリスに留学中の河合栄治郎、本位田祥男両助教授からは、図書購入について尽力するむねの回答が、教授会宛11月初めに到着している。なお河合助教授は、10月に「寄贈図書蒐集整理ニ関スル事務」を嘱託され、手当の支給も受けたので、以後イギリス政府による図書寄贈に関し、在英日本大使館に協力することとなり、その仕事は大正12年10月から翌年6月頃にかけて行われた⁶。

⁴ 糸井靖之、河合栄治郎、本位田祥男の各助教授と向坂逸郎助手。糸井助教授は病床であった。また新渡戸稲造教授も、国際連盟に出向中で、ジュネーヴにいた。

⁵ 経済学部資料(大正12年9月)および『東京大学経済学部五十史』806ページ。

⁶ 経済学部資料(大正12年10月—大正13年2月)、『河合栄治郎全集』第22巻「日記」大正12年10月13日、12月6日、13年4月11日、30日、5月2日、28日、6月2日。なお、イギリス政府による寄贈書は、ほとんどが中央図書館に収蔵された。『経済学部五十

他方、上野教授は、たまたま留学に向かう中西虎雄助教授と共に10月26日出帆、12月20日頃までにイギリスに到着、直ちに活動を開始し、翌大正13年3月下旬まで滞英⁷、ついでドイツに渡り、さらに書籍の蒐集に努めたのち、8月に帰国した。上野教授が滞英中に河合、本位田両教授と接触したことは確かだが、両助教授からどれほどの協力を得られたのか、それは判然としない⁸。ドイツでは、先行した中西助教授と留学中の向坂逸郎助手とが上野教授を補佐し、主としてストライザンド書店⁹を使って蒐集したと思われる。上野教授に託された図書購入費は、大正12年度分のみでも25,000円¹⁰という多額のものであったから、受贈のほか、相当思い切った蒐集が可能であった。

ところで、問題のメンガー旧蔵書は、上述のごとく、大正13年3月31日に登記されている。ヨーロッパから日本までの輸送に2か月を要するとみれば、これらの書物は遅くも1年半ばまでにヨーロッパから送り出されていないと、平仄が合わない。1年半ばといえ、図書購入に出掛けた上野教授は未だイギリスで奔走中であつた。したがって、問題のメンガー旧蔵書は上野教授がイギリスで購入した可能性が多分にあり、またイギリスという点では、河合教授や本位田教授が関与した可能性も、絶無ではない。他方、ドイツもしくはオーストリアでの入手も、十分に考えられる。当時、新渡戸教授はジュネーヴに居り、中西助教授と向坂助手はドイツに留学中であつたし、河合助教授が大正12年秋に、上野教授が年末年始の頃、病臥の糸井助教授を見舞うため、それぞれ短期間ドイツを訪れてもいるからである。

だがともかく、購入当時はメンガー旧蔵書と知った上で登記しておりながら、それが忘れ去られてしまい、現在に至ったことは明らかである。恐らくは、震災後に一挙に購入した数万冊の書籍のなかに、僅か80冊のメンガー旧蔵書は何時しか埋もれてしまったのであろうか。

メンガー旧蔵書再発見の発端は、蔵書票の貼付された1冊のマルサス『人口論』に気付いたことであつた。その1冊を手掛りに、後掲の80冊を探し出して整理し、また入手経路を辿るについては、斉藤滋図書主任以下図書室職員、とくに佐藤昭八、和田隆子、酒入丈夫、伊藤守の諸氏の労を多とする。また脇村名誉教授は、当時の事情を有沢名誉教授、向坂逸郎氏等にお尋ねのうえ、入手経路について情報を提供して下さった。

メンガー旧蔵書は、こうして、経済学部図書室に収蔵されて以来半世紀ぶりに、1冊の紛失もなく、一つの書架に集められた。この由緒ある図書は、一般書とは別置され、一つの文庫として保管される。

年史』806ページ、土屋喬雄「図書の復興について」『級友』第6号、127ページ。

⁷ 経済学部資料（大正13年1月）、河合「日記」大正13年3月23日、土屋前掲稿127-128ページ、大内兵衛『経済学五十年』160-161ページ、『経済学部五十年史』806ページ。

⁸ 河合「日記」大正12年3月23日。

⁹ ストライザンド書店から購入した図書は、裏表紙に同書店のラベルが貼付されている。メンガー旧蔵書には、そのラベルはない。

¹⁰ 経済学部資料（大正13年1月）。